

天白図書館40周年

現在の名古屋市天白区、当時は農村地域だった愛知県
天白村は、昭和30年4月、名古屋市と合併し、名古屋市
昭和区天白町となりました。その後、名古屋市の発展と
ともに恵まれた丘陵地という最適の住宅環境が注目
され、天白町地域はベッドタウン化が急速に進みました。
その結果、昭和区の人口は大幅に増加し、他の行政区と
の不均衡が大きくなり、昭和50年2月、天白町は昭和区
から独立し、人口87,931人の「名古屋市天白区」が誕生
しました。

名古屋市の図書館では、昭和39年から、図書館のない
区に一館ずつ図書館を建設する一区一館制度を取り入れ
ていました。したがって、同時に分区した名東区とともに
に天白区に図書館を新設することは「既定の方針」でし
た。昭和51年6月に開館した名東図書館から遅れること
約1年5か月の昭和52年11月18日、名古屋市15番目の
図書館として天白図書館は誕生しました。そして今年

(平成29年) 40周年を迎えます。

それまでの名古屋市の図書館は、すべて単独の建物で
したが、天白図書館は初めて他の施設(賃貸住宅)との
複合施設となりました。建物から図書館を印象づけるた
め、図書館部分の外観は茶色の耐火タイル張りとなつて
います。

館内は、住宅の大きな建物を利用して、一階部分すべ
てを図書館が使用するワンフロアの配置で、これも名古屋
市図書館として初めてのことです。子どもからお年寄
りまで、ベビーカー、車いすでも利用しやすい施設にな
りました。閲覧室と事務室が一体のため、混雑時には直ち
に職員が対応できます。

新しい試みとして、映写室を備えた「おはなしの部屋」
が設置され、おはなし会の他にも定期的に映画会が催さ
れました。また、現在も名古屋市図書館で唯一の和室の
集会室を設置したことも特徴の一つです。

このように、利用者が利用しやすく、職員が働きや
すい図書館が完成したのは、設計の初期段階から積極的

としよかんしよくいん さんかく
 に図書館職員が参画できたことにあります。そして、
 ちいきぶんこかつどう かつぱつ てんぱくく
 地域文庫活動が活発だった天白区で図書館づくりの
 じゆうみんうんどう さか ふくすう じもとじゆうみんだんたい ていしゆつ
 住民運動が盛んになり、複数の地元住民団体から提出
 された要望が反映されたことによるものです。

また、住民の資料 しりよう
 要求を知るため、図書 ようきゆう
 けんせつげんぱ はじ
 館建設現場を始めとす
 すう しょ きぼう
 る数か所に「希望の
 こぼこ せっち
 小箱」が設置されまし
 た。子どもからの要望 ようぼう
 に「マンガ」が多数ありました。これを受けて、当時は
 たすう とうじ
 全国的に公共図書館ではあまりマンガは所蔵していま
 ぜんこくてき けいこうとうしよかん しよぞう
 せんでしたが、天白図書館は「客寄せ」ではなく、ひと
 きやくよ
 つの「ジャンル」としてマンガを蔵書としました。
 ぞうしよ



建築現場に設置された「希望の小箱」

こうして本山政雄名古屋市長の式辞にもあったように、
 もとやままさおな げい やしちやう しきじ
 ちいき ぎやうせい いったい かんせい じゆうみんさんか
 「地域と行政が一体となって完成した住民参加の図書
 館として、今後も市民の日常生活に役立つ図書館をモツ
 館として、今後も市民の日常生活に役立つ図書館をモツ
 トー」に開館日を迎えました。

かいかん ま のぞ さつとう かんない
 開館を待ち望んでいた市民がどっと殺到し、館内はバ

ーゲン会場なみの混雑で、初日の入館者は約4千人、貸出冊数は5千冊以上。貸出の行列の長さには本を借りるのを諦めた人も多数だったそうです。利用は二日目になっても減らず、二日間を通じての貸出冊数は9,276冊にもなりました。開館時の蔵書約2万冊が瞬く間に貸出され、特に児童コーナーの書架はがら空きとなってしまうそうです。開館初年度の一日当たりの貸出冊数は、名古屋市の他の図書館より5百冊以上多い2,060冊となりました。

その後も順調に利用され、平成28年度末の累計で、開館日数10,919日、貸出者数7,668,827人、貸出冊数24,088,169冊になりました。

このテキストはオリジナルです

参考文献

- ・ 新たな飛翔にむけて、天白図書館10年史 名古屋市天白図書館
- ・ 更なる飛翔にむけて、天白図書館20年史 名古屋市天白図書館
- ・ 名古屋市立図書館年報 昭和52年版 名古屋市鶴舞中央図書館
- ・ 名古屋市立図書館年報 昭和53年版 名古屋市鶴舞中央図書館
- ・ 名古屋市の1区1館計画がたどった道 薬師院はるみ 八千代出版



天白区マスコットキャラクター「かぼっち」